鋸南町 佐久間歴史散歩マップ

季節を感じる信仰深い山あいの里

①十王堂（じゅうおうどう）

あの世の裁判官十王像を祀る。境内の乳銀杏は見事。また西南戦争を戦った佐久間出身の2名の鎮台兵の碑がある。

②不動橋（ふどうばし）

明治の石積アーチ橋。小橋ながらきれいな五角形アーチクラウンが特徴。

③密蔵院（みつぞういん）

頼朝が祈願したと伝わる谷の立身不動尊。良弁作で相模の大山不動尊と同木同作と伝わる。屋台彫刻は4代目武志伊八の作。

④往生寺・密厳院（おうじょうじ・みつごんいん）

安房国札観音霊場10番。伝平安中期の創建。現在は密厳院と併祀。前の道は大崩方面への古道で殿様道(頼朝道)と伝わる。

⑤光明寺（こうみょうじ）

里見氏菩提寺延命寺（南房総市三芳）の開祖・吉州梵貞が開いた寺。曽根静夫の墓がある。また江戸期にこの地を治めた旗本・杉岡能連の墓もある。

⑥日枝神社（ひえじんじゃ）

佐久間中村の鎮守。山王庚申の懸仏をご神体とする。境内に富士講碑。上佐久間中組屋台彫刻は後藤義光作。

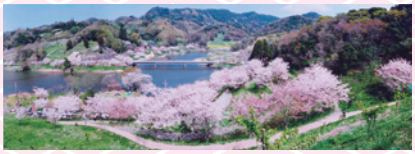
⑦金銅寺（こんどうじ）

安房国札観音霊場11番。大戦で供出されたが幸運にも無事戻った梵鐘がある。

⑧荒砥米子之碑（あらとよねこのひ）

奥山の荒砥通太郎に嫁いだ米子は、養蚕技術を近隣の子女に教え、房州の養蚕業発展に貢献。大正5年、門下生が建てた顕彰碑。

⑨佐久間ダム親水公園



平成元年完成の佐久間ダムは早春から鋸南の特産・水仙を始め、2000本の色々な種類の桜が咲き誇り、桜まつりも開催される散策ポイント。

寺社の彫刻作品等見学は許可が必要です。問合せは鋸南町教育委員会　TEL0470-55-2120

あの世の裁判官　十王様

上佐久間の十王堂に祀られている十王坐像は室町時代の永享８年～12年（1438～42）の作、10体そろった貴重な坐像です。十王とは言わばあの世の裁判官。人は死ぬと初七日から七日ごとに十王の裁きを受け、四十九日目に来世の行き先が決まります。それは六道と言い、天道、人間道、修羅道、餓鬼道、畜生道、地獄道の６つの世界です。罪の最も重い人が落ちる地獄は想像を絶する責め苦が永遠に続きます。

この思想は中国の道教の影響を受け、日本では平安末頃から浸透し始め、鎌倉時代に最も信仰が盛んとなりました。十王像が各地で作られ、それを祀ることで、少しでも罪が軽くなることを祈ったのが十王信仰です。おなじみの閻魔様も実は十王の一人なのです。

十王は、本来は仏ですが、十王という恐ろしい姿に変えて、人々を戒めているのだという本地仏という考え方があります。そのため、少しばかり仏心を見せることもあります。７人目（49日目）の泰山王で判決が下されるわけですが、その後の３人の王の再審査制度があります。この時、残された親族たちが、ちゃんと追善法要をしているかが重要なチェックポイントとなるのです。そのため忌日に合わせ十王を拝み、亡き人の冥福を祈るのです。初七日から四十九日、一周忌、三回忌など、みな十王の裁判日なのです。

佐久間の祭礼は８月15日のお盆の御霊送りの十王堂の仏祭りで、古くからこの地域に十王信仰が根付いていたことを物語っています。

・初七日　秦広王（しんこうおう）
・二七日　初江王（しょこうおう）
・三七日　宋帝王（そうていおう）
・四七日　五官王（ごかんおう）
・五七日　閻魔王（えんまおう）
・六七日　変成王（へんじょうおう）
・七七日　泰山王（たいざんおう）
・百ケ日　平等王（びょうどうおう）
・一周忌　都市王（としおう）
・三回忌　五道転輪王（ごどうてんりんおう）

密蔵院　頼朝祈願の立身出世不動

中佐久間谷(やつ)の密蔵院の本尊は不動明王です。言い伝えでは源頼朝が安房に逃れた時、この不動尊に参詣し、その後天下を取ったことから、谷の立身不動尊として知られるようになりました。

○谷の不動橋

密蔵院の手前、佐久間川の支流にかかる明治42年（1891）の石積みアーチ橋です。半円形のアーチリングで、アーチクラウン（要石）は五角形。小ぶりながら明治期のアーチ橋の面影を残しています。上部を拡張舗装してしまったため、気をつけて見なければわかりません。

○サクマクジラ化石（蛇骨）

江戸時代の天保５年(1834)秋の大嵐のあと、密蔵院住職の竜観法印が、浅間山の山崩れあとで発見し、「蛇骨」として寺に納め伝えられてきた怪石があります。昭和54年、国立科学博物館に鑑定を依頼した結果、歯鯨類の口先、上下顎骨と鑑定されました。新生代第三紀中新世佐久間層の出土と推定され、房総半島における最古の鯨化石であり、和名は「サクマクジラ」と命名されました。サクマクジラは現存の歯鯨の原形で、体長は約5メートルと推定、2000万年前の佐久間は海の底で、海上にはこのような鯨が遊泳していたのです。

失せ物ご利益　金銅寺

奈良時代の和銅２年（709）行基の開創と伝わる古刹。本尊は聖観世音菩薩。安房国札観音霊場11番目の札所です。金銅寺の梵鐘は、数奇な運命をたどっています。江戸時代の寛政元年(1789)に全村人の思いを銘にこめ鋳造されました。長狭大山（鴨川市）の藤原忠直の作です。ところが、第二次大戦中、金属回収令で供出させられました。皆があきらめかけていましたが、幸運にも潰されずに、後に山梨県市川大門町の長生寺の鐘になっていることがわかり、昭和58年、約40年ぶりに里帰りしたのです。

さらに本尊も昭和13年頃盗難にあいましたが、埼玉県で偶然発見され、取り戻しました。このため、金銅寺は失せ物が必ず見つかるというご利益があるのかも知れません。

偉人　曽根静夫

曽根静夫は、奥山村(鋸南町)出身で明治政界に活躍した偉大な政治家です。幼少から頭脳明晰で、明治になり東京に出て農商務省の官吏となり、反発必至の地租改正などに手腕を発揮、西南戦争では鹿児島県庁へ赴任し、賊徒から県庁を守りました。乱後は西郷隆盛の墓標を依頼されています。静夫は能書家としてもかなりの腕でした。大蔵省では国家予算編成にも尽力、現在の日本の国家予算編成の基礎はこの時出来上がったとされます。また台湾統治では、乃木希典総督とともに台湾へ渡り、民政に尽力。その後、山形県知事、北海道拓殖銀行の創業、取締役に就任。明治36年没。墓は光明寺にあります。

奥山改進社

政治的理想に燃える若者が多かった奥山村に、明治14年(1881)改進党の犬養毅らが遊説に訪れたのを機に、荒砥通太郎を中心に改進社が結成されました。若者らはここに集い、政治に勉学に互いに練磨し合い、山村の青年活動の拠点となりました。奥山公民館にかつての奥山改進社の扁額が掲げられ、記念碑が建てられています。